

呉大学編入学希望者のニーズ調査

— 呉および広島地域の病院に勤務する看護職の場合 —

呉大学看護学部

平岡敬子 山内京子 松本信子
中島優子 一色康子

■ はじめに

従来、看護系大学への編入学といえば、看護系短期大学の卒業者のみがその対象であり、看護専門学校卒業生には受験資格がなかった。しかし、1998年の学校教育法の改正により、1976年度以降の専修学校専門課程卒業生にも門戸が開かれ、2000年度から、いわゆる専門学校卒業生が看護系大学に編入学し、看護学士を取得することが可能となった。

平成11年度の教務委員会からの依頼を受け、平成13年度から本学が編入学生を受け入れるにあたり、どのくらいの看護職が本学への編入学を希望しているのかについて、実態調査を行った。すなわち、そのほとんどが専門学校の卒業生である呉および広島地域の病院に勤務する看護職が、何を目的に編入学をめざしているのか、また彼らを受け入れる大学側の役割とは何かについて考察した。

■ 方法

1. 対象

呉および広島地域の病院に勤務する看護職

2. 調査方法

自作の無記名自記式質問紙による調査

3. 調査期間

2000年3月から5月まで

4. 調査項目

1) 対象者の背景 2) 呉大学への編入学希望
3) 編入学の目的 4) 編入学をするにあたっての障害 5) 卒業後の進路等の24項目

5. データ収集方法

呉および広島地域の病院を訪問し、看護部長に調査への協力を依頼した。承諾の得られた後、調査票を配布し、後日、回収あるいは返信用封筒での返送を依頼した。調査票の前文で研究目的を説明し、回答したくない場合には回答する必要のない旨を明記した。

6. データ分析方法

統計ソフトSPSSを使用し、比率の算出、クロス集計、 χ^2 検定を行った。

■ 調査結果

呉および広島地域の病院に調査の依頼をしたところ、13カ所の病院で承諾を得て、270名に調査用紙を配布し、221名（回収率81.9%）より回答を得た。

1. 対象の概要

対象者221名の内訳は、女性211名（95.5%）、男性10名（4.5%）で、年齢は20代の133名（59.9%）が最も多く、次に30代の58名（26.1%）が多かった。最終学歴は専門学校卒業生が195名（87.2%）、短期大学卒業生が23名（10.4%）であった。現在の職位は看護婦・士184名（83.3%）がほとんどであった。在職年数は6年から10年が60名（27.0%）で最も多く、次に3年から5年の57名（25.7%）が多かった。勤務形態は大多数の150名（67.6%）が三交代勤務であった。

2. 呉大学への編入学希望の状況

対象者のうち、看護系大学への編入学を希望す

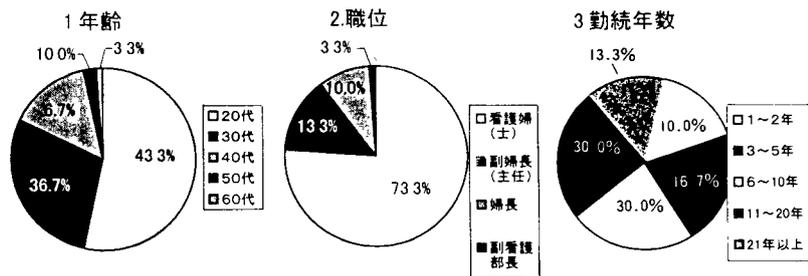


図1-1 基本属性別にみた編入学希望者の分布図

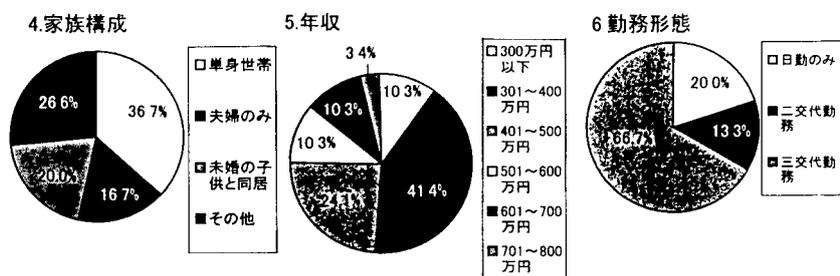


図1-2 基本属性別にみた編入学希望者の分布図

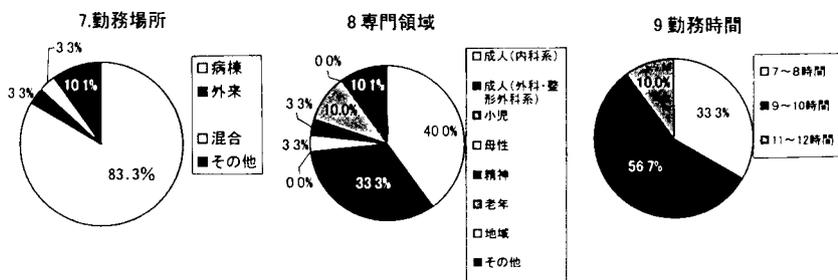


図1-3 基本属性別にみた編入学希望者の分布図

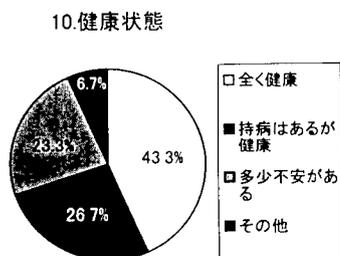


図1-4 基本属性別にみた編入学希望者の分布図

る者は90名(40.7%)、希望しない者は54名(24.4%)であった。わからないと回答した者は77名(34.8%)であった。看護系大学への編入学を希望する者のうち、呉大学への編入学を希望している者は、30名(13.6%)であった。呉大学への編入学を希望しないと回答した者は12名で、そのうちの8名は「よその看護大学を受験したい」と回答した。

呉大学への編入学を希望した者の性別は、女性が29名(96.7%)で、男性は1名(3.3%)のみであった。年齢は、20代が最も多く13名(43.3%)であった。ついで、30代が11名(36.7%)、50代

が3名(10%)、40代は2名(6.7%)で、60代も1名(3.3%)いた。ただし、数としては対象者の多かった20代が一番多いが、希望者の占める割合を見ると、20代(9.3%)よりも30代(19.3%)の方が多かった。

最終学歴は専門学校卒業者が29名(96.7%)で、短期大学卒業者が1名(3.3%)であった。保健婦・士免許を所持する者は一人もいなかった。

現在の職位は、看護婦が22名(73.3%)、副婦長(主任)が4名(13.3%)、婦長が3名(10.0%)、看護部長が1名(3.3%)であった。勤続年数の平均は約11年で、6年以上10年以下と、11年以上20年以下がそれぞれ9名(30%)でもっとも多かった。割合で見ると、勤続年数が長くなるほど呉大学への編入学希望者の割合が多くなる傾向があり、勤続年数3年から5年の希望者は10%に満たないが、11年以上

の看護職の20%以上が、呉大学への編入学を希望していた。また、希望しないグループの勤続年数が1年から5年未満に集中していることから、呉大学への希望者は勤続年数の長い者が比較的多いことがわかる。

家族構成は単身者が多く、11名(36.7%)で、夫婦のみの世帯が5名(16.7%)であった。また、子供がいる者も6名(20%)いた。年収の平均は約400万円で、300万円台が12名(41.4%)で最も多かった。ついで、400万円台が7名(24.1%)で、500万円台、600万円台がそれぞれ3名(10.3%)おり、300万円以下も3名(10.3%)いた。

勤務形態は三交代をしている者が20名(66.7%)でもっとも多く、二交代が4名(13.3%)、日勤のみが6名(20%)であった。また、勤務場所は、25名(83.3%)が病棟勤務で、外来勤務は1名(3.3%)、管理室等が3名(10%)であった。一回の勤務時間の平均は9時間で、9~10時間が最も多く17名(56.7%)であった。8時間以内は10名(33.3%)、11~12時間勤務している者が3名(10%)であった。

表1 編入学の希望理由 (%)

1. 看護学をもっと勉強したい	88.9
2. 幅広く色々な分野の勉強がしたい	66.7
3. 人間的に成長したい	59.3
4. 大卒看護学士の資格がほしい	59.3
5. 一般教養を学びたい	59.3
6. 大学に行ってみたい	40.7
7. 保健婦(士)の資格がほしい	25.9
8. 教員になりたいので必要	18.5
9. 大学院に行きたいので必要	7.4

(有効回答者数 29人・重複回答を含む)

専門領域は、成人内科系が12名(40%)でもっとも多く、次に成人外科系が10名(33.3%)であった。老年が3名(10%)、母性、精神看護がそれぞれ1名(3.3%)であった。

健康状態は、多少不安がある者が7名(23.3%)いたが、ほとんどは健康あるいは持病があっても健康であると認識している者たちであった。

3. 編入学の目的

対象者が編入学を希望する中で最も多かった理由は、「看護学をもっと勉強したい24名(88.9%)」であった。ついで「広い分野の勉強がしたい18名(66.7%)」、「人間的に成長したい16名(59.3%)」が多かった。反対に、「保健婦・士の資格が欲しい7名(25.9%)」という理由は少なく、「教員になりたい5名(18.5%)」、「大学院に行きたい2名(7.4%)」に関しては少数であった。

編入学の目的を年代別に検討してみると、「看護学をもっと勉強したい」という理由は、年齢が高くなるほど増えていた。「大学院に行きたい」、「教員になりたい」という目的を持つ者は、20代、30代には若干名いたが、40代以上の中高年には、全くいなかった。さらに、40代以上の者には、「保健婦・士の資格が欲しい」、「学士が欲しい」などの資格を取得するために編入学を希望する者も、一人もいなかった。

4. 特に学びたい授業科目

呉大学への編入学希望者に本学のカリキュラムの中で、受講してみたい授業科目を尋ねたところ、特に受講の希望が多かったものは、「ターミナルケア24名(80%)」、「在宅看護学20名(66.7%)」、「患者心理・心身援助学19名(63.3%)」、「心理学概論19名(63.3%)」、「英語18名(60%)」、「コンピューターネットワーク17名(56.7%)」であった。

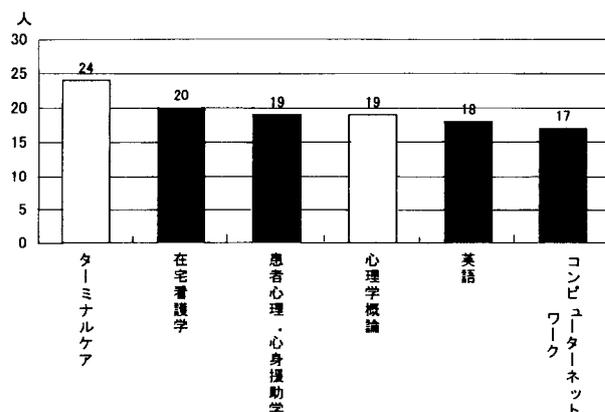


図2 学びたい授業科目

表2 編入学の障害

	全く障害になっていない (%)	少しは障害になっている (%)	障害になっている (%)	非常に障害になっている (%)
1. 仕事との両立が難しい	7.1	25.0	17.9	50.0
2. 編入学の合格定員が少ないので、合格する自信がない	3.6	14.3	25.0	57.1
3. 大学の授業についていけないかどうかが学力に自信がない	3.6	39.3	32.1	25.0
4. 学費が高いなど経済的な問題がある	3.6	35.7	25.0	35.7
5. 子育て、親の介護など家庭の事情がある	74.1	11.1	0.0	14.8
6. 受験勉強の時間がないなど受験の準備が十分にできない	7.4	33.3	33.3	25.9
7. 体力に自信がない	51.9	37.0	11.1	0.0

(有効回答者数 28人)

表3 卒業後の進路 (%)

1. 現在の職場に勤務する	41.4
2. 条件の良いところへ就職したい	31.0
3. その他	17.3
4. 大学院に進学したい	10.3
合計	100.0

(有効回答者数 29人)

これらは、現在、臨床で勤務する看護職の学生時代には授業科目になく受講できなかった科目や、日々の患者との関係の中で生まれる疑問や葛藤に答えを求める科目、あるいは現代の国際化・情報化社会の中で道具として必要とされているものである。

5. 編入学をするにあたっての障害

呉大学へ編入学するにあたっての障害について尋ねたところ、一番の問題は「試験に合格する自信がないこと」であった。呉大学への編入学希望者の80%以上の者が、試験に合格するか否かが「障害になっている7名(25.5%)」、あるいは「非常に障害になっている16名(57.1%)」と答えた。次に多かった編入学への障害は、「仕事との両立」であった。呉大学への編入学希望者の中

で、現在、勤務している施設を退職し、フルタイムの学生になると回答している者は8名で、全体の30%に満たない。残りの70%以上の者たちは、必ず、あるいはできれば仕事と学業とを両立させる方向で、編入学を考えている。呉大学への編入学希望者の70%の者が、仕事との両立が「障害になっている5名(17.9%)」、あるいは「非常に障害になっている14名(50.0%)」と答えた。その他には、「経済的な問題17名(60.7%)」、「受験の準備の時間がないこと16名(57.1%)」、「授業についていく自信がない16名(57.1%)」があった。しかし、家庭の事情や体力に関しては、障害と感じている者はいずれも10%程度であった。

6. 卒業後の進路等について

大学を卒業した後は、「引き続き現在の職場に勤務する」と回答した者が最も多く、12名(41.4%)であった。「もっと条件の良いところに就職する」と回答した者は9名(31.0%)で、「大学院への進学」を考えている者も3名(10.3%)いた。

■ 考 察

今回の調査結果から、呉大学看護学部への編入学を希望している看護職の特徴と、編入学希望者のニーズと大学側の役割について考察する。

1. 呉大学看護学部への編入学を希望している看護職の特徴

まず第一の特徴は、20代、30代の単身者あるいは夫婦のみの家族構成にある勤続10年前後の管理職ではない看護婦が、呉大学への編入学を希望していることである。但し、調査対象者が集中していたことから、数としては若年層の希望者が多かったが、割合で見ると、勤続年数が長くなるほど呉大学への編入学希望者の割合が多くなる傾向があり、勤続年数10年以上の管理職もまた呉大学を希望していた。

次に、積極的に生涯教育を受けている者に編入学の希望者が多いという特徴がある。例えば、半数以上が院内研修、院外研修を受けており、職場での経験を積むだけで満足しているものは2名のみだった。また、学会発表等の経験がある者や夜間大学、放送大学、学位授与機構を利用している者もいた。生涯教育の一環として大学での再教育を希望していることが伺える。

また、呉大学への編入学を希望する理由は、看護学をはじめ広い分野の勉強をしたいという理由が多い特徴がある。反対に、大学院への進学や教員の志望等はほとんどなかったことから、彼らの編入学の目的は、保健婦・士の資格や学士などの資格を取得し、キャリアを形成するというよりもむしろ、看護学の再教育や生涯教育を受けることにあるようである。

さらに、呉大学への編入学を希望している者の多くは、現在の職場を退職せずに、大学に通うことをめざし、卒業後も同じ職場で勤務することを考えているという特徴がある。したがって、彼らの編入学後の障害は、いかに仕事と学業とを両立させるかである。家庭の事情や経済的な問題よりも、仕事との両立がむずかしいことが編入学への障害となっているようである。また、呉大学への編入学を希望する理由は、「勤務地に近いこと」や「居住地に近いこと」が他の理由に比べて有意に高かった($P < 0.01$)。自分の学力にあっていことや推薦入試が可能であること等は該当しないことから、学力や校風よりも勤務地あるいは居住地に近く、通学が容易であることの方が優先されることが推察される。

2. 編入学希望者のニーズと大学側の役割

呉大学への編入学希望者の多くが、現職のまま、学業も修めたいと考えていることから、彼らの大学への期待や要望はフルタイムの学生とは異なる。例えば、講義の時間については、夜間や集中講義の希望が多かったり、曜日については土曜日の開講を希望する者が多かった。彼らは、必ずあるいはできれば、2年間の在学期間で卒業することをめざしており、3年以上かかっても構わないと考えている者は少数であった。したがって、最小在学年数で卒業するためには、大学は彼らが受講しやすい時間割を作成することが求められている。

また、呉大学への編入学希望者がカリキュラムの中で、受講の希望が多かったものは、「ターミナルケア」、「在宅看護学」、「患者心理・心身援助学」など、日々の看護業務の中で生まれた問題意識に答えを求める科目であり、現在、臨床で勤務する看護職が学生時代には授業科目になく受講したくてもできなかった科目である。したがって、大学は、編入学へのカリキュラムの中で、保健婦・士の免許を取得するための地域看護学の科目や一般教養科目に加えて、看護学の再教育に適した専

門科目を充実させることが求められる。

■ おわりに

呉および広島地域の看護職に大学への編入学の希望を調査したところ、調査対象者の1割強の者が呉大学への編入学を希望していることがわかった。また、彼らの編入学の目的は、従来のような

保健婦・士への転職や大学院への進学という、いわゆるキャリアを形成するためではなく、むしろ看護学をはじめ、もっと広い分野の勉強を専門的に深めたいというものであった。大学は、看護学の再教育や生涯教育を受けたいという彼らのニーズにあったカリキュラムの編成や時間割の作成をすることが、今後の課題となるであろう。

参考文献

- 1) 佐藤まゆみ：看護系短期大学在学者の生涯学習計画における3年時編入学教育へのニーズ。日本看護学教育学会誌，9(1)：13-24，1999。
- 2) 河口真奈美：臨床看護婦の編入学希望状況。Quality Nursing, 3(11): 59-64, 1997。
- 3) 横山京子：看護専門学校を卒業した看護婦・士の学位取得に関する研究。看護教育学研究，8(2)：8-9，1999。
- 4) 舟島なをみ：専門学校を卒業した看護婦（士）の学位取得に関する研究，Quality Nursing, 3(7): 57-63, 1997。
- 5) 大室律子：専門学校卒業者の大学編入学を可能として制度改革について，看護教育, 39(9)：755-759, 1998。